

熱海大火

広報 **Atami** あたま

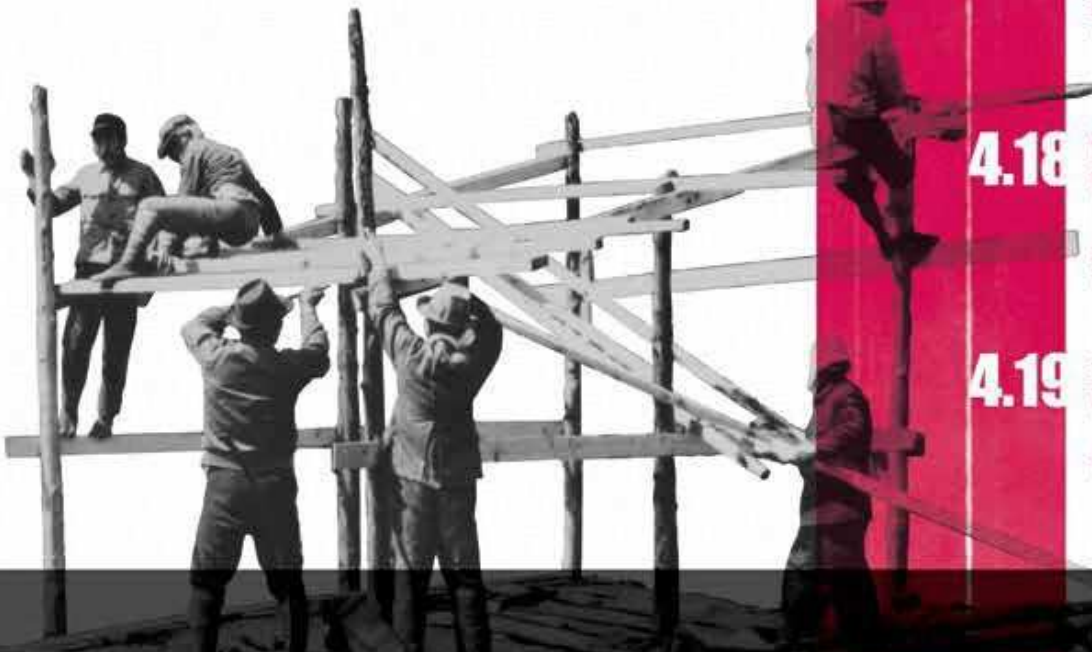
広報あたま No.764 10月9日発行

10 **2020**
熱海大火から70年

◆今月の主な内容◆

熱海大火特集・・・2

熱海市経済変動対策
貸付資金利子補給金制度・・・6



1950. 4.13

市役所、警察丸焼け
旅館四十七軒ヘロリ
4月15日 東海朝日新聞

4.14

県から復興資材千戸分、
寝具千枚、五千人の食糧など 急送
4月14日 読売新聞号外
バラック建設始まる



4.16

燃えない泉都の再建
4月18日 東海民報

4.17

宗秋月熱海市長率いる
熱海・県一行が政府・国会へ
拳国的援助を獲得
4月19日 伊豆毎日新聞

4.18

借地借家人に一大朗報
焼跡の紛争に断
4月18日 東海民報

連日、国会へアピール
4月19日 伊豆毎日新聞

4.19

金融には「政府の配慮」
愈よクイ打ち開始
4月19日 伊豆毎日新聞
街の再建始まる

各記事に記載している7桁のページIDを市のHPの検索窓に入力すると、該当ページが表示されます。

ID

検索

大火から復興への【1週間】

1950年
4月
13日

熱海大火

午後5時15分ごろ、埋立工事中の榎本組飯場付近から出火。熱海銀座角の木造東横百貨店に飛火し、合計3万8千坪が全焼した。鎮火は翌14日午前零時半ごろ。

県はすぐに「災害救助法」を適用、県下各警察署のトラックを動員し必要物資を急送。沼津市などの料理飲食店を動員し、炊き出しが実施された。

市役所、警察丸焼け

旅館四十七軒ペロリ

4月15日 東海朝日新聞

1950年 4月3日
熱海駅前火災、94戸焼失

そうしゅうげつ

宗秋月熱海市長率いる

4月 熱海・県一行が政府・国会へ 17日 挙国的援助を獲得

宗熱海市長はじめ市議会議員、小林静岡県知事ら一行約50人で上京し、益谷建設大臣を訪問。起債1億5千万円による区画整理(焼失区域街路事業)について意見を具申の結果、原案通り実行が決定。

→都市計画実施へ

4月16日 復興案発表

建設省八島都市局長・同伊東住宅局長らは県高島都市計画課長、宗市長をはじめ市首脳部らと熱海の復興案をめぐって、前日から徹夜で協議。

糸川と初川を防火帯として遊歩道を整備、幹線道路の拡幅、海岸通りと銀座通りの鉄筋コンクリート造の指示など、現在の街並みの大部分がこの復興案に基づいて建設されることとなった。

燃えない泉都の再建

4月18日 東海民報

4月14日 緊急市議会

復興に一億円の起債

4月15日 朝日新聞

緊急市議会を開き、県を通じて約1億円の起債を申請することとなり、県地方課長が自治省に連絡のため急行した。

同市議会にて、準防火措置として指定区を設け耐火建築を行うこと、都市計画法による建築線を設定し道幅を強制的に拡張することも決定、14日告示した。

4月14日

県から復興資材千戸分、

寝具千枚、五千人の食糧など急送

4月14日 読売新聞号外

4月15日

焼け跡整理応援隊

4月15日 東海朝日新聞

県消防協会からは田方地方の消防団員が500人ずつ10日間、手弁当で片付け作業を行うこととなった。

静岡県庁から、藤原静岡県副知事が現地に入るとともに復興用の資材千戸分、布団寝具、食糧などが急送された。

国鉄では生活必需品の1カ月無料輸送および建築資材の3カ月、半額輸送を発表。

午前中にはトラックで復興資材が運び込まれ、早くもバラックが建ち始めた。

4月14日

1950(昭和25)年4月13日の大火により、熱海市の市街地は約4分の1が焼失しました。(※1)

今の熱海の街並みはこの大火を契機とした都市計画に基づき、道路、港湾、上下水道、ごみ処理場の整備、市営住宅の建設などが行われたものですが、その復興は「誰しもが予想もできないような急速度」で進められました。

当時の新聞によれば、火災当日に多地域(※2)の応援消防団が駆けつけ、翌日にはバラックの店舗が建ち、大火から5日目に熱海国際観光温泉文化都市建設法案が衆院を通過、6日目には復興に向けた工事が開始されたのです。この奇跡的な復興を実現した要因とは、一体何だったのでしょうか？

※1) 焼失棟数979戸、被災世帯1,465世帯、罹災者5,745人、損害額55億円

※2) 静岡・沼津・大仁・宇佐美・網代・伊東・三島・箱根・湯河原・小田原・伊豆長岡など
本特集は、当時の新聞記事のほか『熱海市史』なども参考にしています

4月19日

金融には「政府の配慮」
愈よクイ打ち開始

4月19日 伊豆毎日新聞

大火から6日後という異例のスピードで区画整理のクイ打ちが開始され、道路7本の拡幅・道路8本の新設工事が始まる。これにより各道路の幅員は次の通り拡張された。

▽駅前～天神町…12メートル
▽市役所～来の宮…12メートル
▽糸川～初川の両側…6メートル など

5月1日

静岡県熱海復興事務所開設

都内で復興イベント
東京のド真中で手踊り 熱海芸妓健在ぶりを披露

5月18日

借地借家人に一大朗報 焼跡の紛争に断

4月18日 東海民報

「借地借家臨時処理法」の適用が決まり、焼けだされた借地借家人は、現場における借地権および居住権を保証されることとなった。

連日、政府・国会へアピール

4月19日 伊豆毎日新聞

宗市長、岩本、小島正副議長ほか罹災議員をのぞく議員19人の一行は前日に引き続き昨日18日、再び大挙上京、今明日中に熱海国際観光温泉文化都市建設法案の通過成立を期して国会を訪問、猛運動を展開した。

4月18日

熱海国際観光温泉文化都市建設法案 衆院通過

復興 花火大会開催

1952年 8月5日

熱海国際観光温泉文化都市建設法 施行

熱海国際観光温泉文化都市建設法 住民投票 約8割が賛成

6月28日

1950年 8月1日

熱海市の復興は大火以前の水準を上回る

1953年

消毒用アルコールを安全に取り扱うための注意事項

ID1009227



新型コロナウイルス感染症防止のため、消毒用アルコールを使う機会が増えています。消毒用アルコールは消防法上の危険物のアルコール類に当たります。取り扱いを誤ると火災などを引き起こす恐れがありますのでご注意ください！



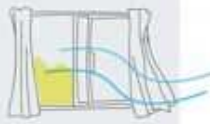
1 火気の近くでは使用しないようにしましょう

消毒用アルコールは蒸発しやすく、可燃性蒸気となるため、火源があると引火する恐れがあります。



2 直接日光が当たる場所などに保管することはやめましょう

直射日光の当たる場所など高温になる場所で保管すると、可燃性蒸気が発生し火災の原因となります。



3 詰め替えを行う場所では換気を行いましょ

消毒用アルコールの詰め替えを行う時は、漏れ、あふれ、飛散に十分注意しましょう。可燃性蒸気は空気より重く、低所に滞留しやすい性質があります。可燃性蒸気を滞留させないようにしましょう。

4 「火気厳禁」などの注意事項を記載しましょう

消毒用アルコールを詰め替えた容器には、消毒用アルコールであることや「火気厳禁」の注意事項を記載しましょう。

火気厳禁 アルコール
類水溶性 危険等級II

記載例

熱海市消防本部では住宅用火災警報器の設置をお手伝いします

ID1005066



ご相談いただければ、無料で設置する支援を実施しています。ただし、住宅用火災警報器は各世帯で事前に購入していただく必要があります。

対象者

- ・市内在住で65歳以上の世帯
- ・さまざまな理由で取り付け困難な場合

熱海市における住宅用火災警報器の設置率は80%

火災の早期発見や逃げ遅れを防ぐために住宅用火災警報器を設置しましょう！
定期的な点検の実施と、設置から10年経過したものについては交換をお願いします。

全国 82%
静岡 78%

設置率

まずは住宅用火災警報器相談窓口までご連絡ください。

熱海市消防本部
消防総務課
予防室
☎0557(86)6621



1 実現できないと言われて頓挫した、「夢物語の都市計画」が支えた復興

実は、大火前の昭和22年から熱海市は都市計画案の策定に着手していましたが、区画整理や大規模工事が必要なため実現は難しいといわれ、実施には至りませんでした。しかし、大火後の復興計画には、その都市計画が活用されています。
この都市計画がなければ、大火後の街並みは、復興まで大幅な時間がかかったと思われる。

復興を支えた3つの要素

2 復興に向けて噛み合った、個々の活動と一致団結

熱海市長、市議会議員、市職員、熱海市出身の代議士や県議会議員などさまざまな立場の人たちが、自分のできる最善の選択と行動を、自主性を持って行っていたことが当時の資料から読み解けます。
当時、他の地域でも実施されていた「特別都市建設法」の採択や戦争被害による罹災を想定していた「借地借家臨時処理法」の適用など、当時の国策としてすすめていた観光振興の流れを敏感に掴み取りながら、復興に活用可能な制度を駆使し、立場の違いを超えて一致団結した取り組みが、復興の成功を支えました。

3 公共的な意識を持ちながら主体的な活動をした市民の協力

市街地の再建にあたっては、さまざまな立場からの意見対立や立ち退き、建設工事の利権の問題から、工事が進まないケースもあります。しかし熱海大火からの復興は、そういった個人の立場を超えた協力により、驚異的な速度で、街並み復興とその後の経済的復興が実現しました。
これは当時が戦後間もなく、食糧の配給も続いていたことから、市民の公共意識が高かったという背景もありますが、一人ひとりがしっかりと自主性を持った判断をしながら、町内会・商店街・行政が行われたことが、この奇跡的な復興の一番の要因ではないでしょうか。

復興を支えた当時の市長



宗秋月 第6代 熱海市長

熱海を襲った災害の一つに昭和24年の「キティ台風」があります。実はこの台風被害の復興工事の現場が熱海大火の火元になっていました。そして、このキティ台風と駅前の火災も含めた熱海大火を乗り越えたのが、宗秋月熱海市長でした。
新聞にも「まるで災害処理のために市長になったようなもの」「不眠不休、極度の疲労をおかして頑張る宗市長の奮闘ぶりには涙ぐましいものがある」と記載されてしまうほど、大変な時期での公務となりましたが、常に陣頭で復興を牽引しながら、当時の議事録にも「自らの責任で行う」旨の発言をし、一刻も早い復興に向けて奮闘する市長の記録が残されています。